

仕事と原点回帰

浅野 介^{よしひろ} 敬 (良裕)

今年はいろいろな問題が表面化し、それらの問題の解決のために原点に還って考え、行動する必要があるということで、テーマを原点回帰としました。そしてスポーツ、歩行、呼吸と体の使い方での原点回帰について考えてきました。スポーツ界では体の動かし方、トレーニングよりも、スポーツ界の人間関係や組織等に関して問題が表面化し、日本のスポーツ、体育系のあり方そのものが問題になっています。

また歩き方や呼吸は人間の意識と無意識の境界で、その適否は健康や能力発揮に関して大きな影響があるものと思われます。二足歩行と呼吸・発声・言葉は人間が他の動物と違う基本的な機能であり、人類の進化の最も基本的な原因と言われています。まだまだ歩き方や姿勢、筋肉の使い方、呼吸や発声の仕方等の意識的改善により、人の基礎的能力は向上し、全人的にも新たなレベルに進化する余地があるのではないのでしょうか。

今月は我々にとって重要な仕事に関して見ていきます。

仕事を考えるとき、普通その目的から考え、目的達成のための具体的方法、手順等を考え、目的に合った成果物を生み出していきます。そして仕事のプロセス全体を理解し、無駄を省いていくことにより仕事全体がスムーズに流れ、より効果的、効率的になりその仕事をマスターしていきます。

しかしながら一旦ある程度仕事をマスターしたと思った時から、仕事は習慣となり、無意識的・惰性的になっていく傾向があります。特に仕事の目的内容を十分に理解しないで見よう見まねで行ってきたときにはそうです。

パブロフの犬という実験があります。犬にベルを鳴らしてからエサを与えるのを続けていくと、ある時からベルを鳴らただけで犬は唾液を出すというもので、条件反射の実験として有名です。ベルとエサとは本来関係ないのに、条件反射的にベルに反応してしまいます。これと同じようなことが仕事でも起こっており、特定の仕事に慣れてくると、その仕事をするという指示だけで、条件反射的に何も考えずに行ってしまうがちです。

これは特定の具体的な仕事に対してだけでなく、その人の思考パターン、考え方、行動の仕方に当てはまります。人にはその人特有の無意識的な思考パターンや行動様式があり、これがその人の特徴になっています。同じ間違いを繰り返したり、習慣を変えられなかったり。個性というよりその前の段階の我流です。

具体的な仕事に関しては、目的が少し変わったり、材料が変わったり、道具が少し変わっただけで、作られた成果、商品やサービスの価値は変わってしまい、同じことをやっていたのでは仕事はうまくいかなくなります。

仕事で原点回帰という時には、仕事のそもそもの目的から考え直すことであり、仕事の目的は通常お客様の要望、ニーズを満たすことです。ですから、社会の変化に対応しこのニーズの変化に対応し、そのニーズを満たす商品サービスを提供しなければなりません。

またAI等道具の変化が、仕事自体を原点から考え直す必要を迫ることもあります。仕事の原点回帰というときには、個人や企業の顕在的、潜在的な変化を社会の動きの中で捉え、人間の本質レベルから考えていく必要があるでしょう。